

自己評価報告書

平成 23 年 5 月 20 日現在

機関番号：32632

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2008～2012

課題番号：20520179

研究課題名 (和文) 西鶴以降の浮世草子の研究

研究課題名 (英文) A Study of Ukiyo-zōshi after Saikaku

研究代表者

佐伯 孝弘 (SAEKI TAKAHIRO)

清泉女子大学・文学部・教授

研究者番号：40255956

研究分野：

科研費の分科・細目：人文学 文学 日本文学

キーワード：浮世草子 八文字屋本 江島其磧 井原西鶴 上田秋成 『風流三国志』 実録 永井堂亀友

1. 研究計画の概要

以下の6つの事柄を進めている。

- (1) 浮世草子作品と、他ジャンルや書肆・実事件・伝説・当時の文化状況等との関係の考察
- (2) 浮世草子研究文献目録の作成
- (3) 浮世草子作品の注釈作業
- (4) 専門雑誌の編集作業
- (5) 浮世草子作品の影印・翻刻と研究史整理
- (6) 『浮世草子事典』(仮称)刊行に向けた準備

2. 研究の進捗状況

(1) 浮世草子作品と、他ジャンルや書肆・実事件・伝説・当時の文化状況等との関係の考察

佐伯は江島其磧の習作期の役者評判記や『世間子息気質』の特質、八文字屋本の挿絵、怪異小説と笑いの関係につき、篠原は浮世草子の寓言性や上田秋成・荻坊奥路・永井堂亀友・大雅舎其鳳らの末期浮世草子の趨勢、『和漢乗合船』の特質につき、長谷川は浮世草子と実録体小説との関係、近世後期文人への浮世草子の影響につき、杉本は八文字屋本の金銭の用例につき考察し、論文を発表した。

(2) 浮世草子研究文献目録の作成

前に受けた科学研究費で行っていた作業を継続し、文献の現物調査・収集、リストの増補を行った。昭和 36～平成 7 年分を、『西鶴と浮世草子 研究』3号(平成 22年 5月)・3号別冊(同 2月)・4号(同 11月)に順次掲載。また、佐伯が「西鶴・浮世草子 最新文献ガイド〔平成 19年版〕」「同〔平成 15～19年補遺〕」(要約文付き、共編)を作成し、上記誌に掲載。

(3) 浮世草子作品の注釈作業

西沢一風作『風流三国志』の注釈を『西鶴と浮世草子 研究』3号別冊に発表。其磧作

『風流曲三味線』の輪読を終了。

(4) 専門雑誌の編集作業

『西鶴と浮世草子 研究』3号の編集責任(共編)に杉本が、同 5号(間もなく刊行予定)の編集責任(共編)に長谷川が当たった。

(5) 浮世草子作品の影印・翻刻と研究史整理

長谷川と佐伯が『浮世草子研究資料叢書』全 7巻(平成 20年、クレス出版)を編集。同叢書は浮世草子 14作品の影印と、昭和 37年以前の今では入手しにくい論文や研究書を収録。「解説」は長谷川が収録作品の書誌解題、佐伯が研究史整理と収録論文のピックアップを担当した。杉本は錦文流の研究史を纏め発表した。

(6) 『浮世草子事典』(仮称)刊行に向けた準備

編集方針についての話し合いや、解題の書式の検討等を行った。

3. 現在までの達成度

③(理由)前記作業の(1)(3)(4)はほぼ順調。立ち上げた雑誌『西鶴と浮世草子 研究』(笠間書院刊)は、間もなく予定の 5巻を完結する。しかし、(2)の目録作成作業が、悉皆調査の対象となる文献が膨大であること、作業を進める浮世草子研究会のメンバーが複数抜けてしまったこと等により、やや遅れている。(6)は、(2)の作業が終わらないうちはなかなか取り掛かれずにいる。

4. 今後の研究の推進方策

(1) 浮世草子作品と、他ジャンルや書肆・実事件・伝説・当時の文化状況等との関係の考察については、今後とも各人が考察を進め論文を発表する。

(2) 浮世草子研究文献目録の作成について

は、『西鶴と浮世草子 研究』5号（平成23年6月刊行予定）に掲載分をもって、明治から平成21年までの文献リストを掲載し終えたことになる。今後は、現在受けている科学研究費の研究期間終了時に、詳細な索引を付して纏め、『西鶴・浮世草子 研究文献目録』を単行本の形で刊行すべく、リストの増補や、文献ごとのキーワード抽出を作業グループごとに進めたい。

問題は、上記単行本を笠間書院より刊行を予定していたが、昨今の厳しい出版事情を受け、冊子の形での刊行が叶わないかもしれないこと（現在相談中）。場合によっては、webやCDの形での成果発表となる可能性がある。

(3)『浮世草子作品の注釈作業』については、輪読を終えた『風流三国誌』の注釈の発表へ向け、再調査や整備に入る。毎月の浮世草子研究会例会では上田秋成作『諸道聴耳世間猿』の輪講に入っており、注を付け終わるまでに3年程は掛かる予定。

(4)『専門雑誌の編集作業』については、立ち上げた浮世草子専門誌『西鶴と浮世草子 研究』（笠間書院）も間もなく予定の5冊が完結。取り敢えずは所期も目標を達する。今後の継続誌の刊行については未定である。

(5)『浮世草子作品の影印・翻刻と研究史整理』については、『浮世草子研究資料叢書』全7巻（クレス出版）に従来正確な影印・翻刻のなかった浮世草子作品を多数収録できたことより、目的を半ば達成。あとは、各人が個々に、未翻刻作品の影印・翻刻や研究史整理を、所属大学の紀要等に載せる形となるかと想定している。

(6)『浮世草子事典』（仮称）刊行に向けた準備については、作業量が膨大な（2）の目録作業を完結させないと、同時には懸念するのが難しい。また、浮世草子研究会と西鶴研究会とが連携して作成に当たる予定だが、両会の作業分担の仕方や、どの出版社から刊行するかなど、なお未確定の事柄が多い。今後、浮世草子研究会と西鶴研究会との連絡を密にしたり、出版社側と良く話し合ったりすることが必要だろう。

5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計24件）

- ① 篠原進、「青い聖痕の神話—浮世草子『和漢乗合船』の位置—」、『文学』10巻1号、pp35～50、2011、査読無
- ② 佐伯孝弘、「『世間子息気質』考—その面白さと新しさ—」、『西鶴と浮世草子 研究』3号別冊、pp3～13、2010、査読無
- ③ 長谷川（倉員）正江、「菓子を落とした小

姓の話——実録『細川の血達磨』と浮世草子—」、『解釈と鑑賞』74巻3号、pp118～125、2009、査読無

- ④ 篠原進、「ミネルバの鼻の行方—『世間狙』と『妾形気』のあいだ—」、『文学』（隔月刊）10巻1号、pp129～141、2009、査読無
- ⑤ 佐伯孝弘、「『役者口三味線』後の其磧の（揺れ）—『役者万年暦』をめぐる—」、『日本文学』57巻10号、pp12～22、2008、査読有

〔学会発表〕（計3件）

- ① 佐伯孝弘、「近世前期怪異小説と笑い」、高麗大学日本研究センター日本学シンポジウム「江戸文学の中心と周縁」、2009年9月18日、韓国高麗大学校
- ② 篠原進、「村上春樹という逆接—浮世草子・寓言・レトリック—」、日本文学協会第63回大会（大会テーマ「共同製作される世界—〈文学〉の混沌に向き合う—」、2008年11月23日、二松学舎大学
- ③ 長谷川（倉員）正江、「江島其磧作・西川祐信画『女中風俗玉鏡』の初版と覆刻版をめぐる」、国際絵本シンポジウム「江戸の絵本・画譜」、2008年6月29日、国文学研究資料館

〔図書〕（計4件）

- ① 杉本和寛（谷脇理史・杉本好伸と共編）、笠間書院、『西鶴と浮世草子 研究 Vol 3（特集・金銭）』、2010、285頁
- ② 佐伯孝弘（共編）、浮世草子研究会、『西鶴以降の浮世草子の研究』（科学研究費補助金研究成果報告書、『西鶴と浮世草子 研究』3号別冊を兼ねる）、2010、331頁
- ③ 長谷川（倉員）正江・佐伯孝弘、クレス出版、『浮世草子研究資料叢書』全7巻、2008、各巻平均670頁
- ④ 篠原進（共編）、三弥井書店、『〈三弥井古典文庫〉西鶴諸国はなし』、2008、219頁